

2018 5/8

No.2066

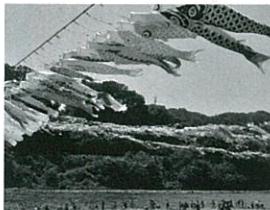
毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



相模川の高田橋上流の河川敷（相模原市中央区）で、約1200匹のこいのぼりが初夏の風に乗り、気持ちよさそうに泳いだ。ゴールデンウイーク恒例のイベント。



contents

視点・点描	3
法曹界に新たな人材を	
講演録	4
原発ゼロで日本経済は再生する 城南信用金庫顧問・元理事長 吉原 毅	
経済・紙上座談会	8
財務省、不祥事で信用失墜 人事刷新、解体的出直し	
国際	12
ナジブ首相に国民の審判 マレーシアで総選挙	
企業最前線	14
目覚める睡眠ビジネス IT、食品企業も触手	
くらし2018	16
人工透析中も運動療法	
広告珍談	18
広告はたのしい⑥ すぐれたアドマン	
NNAアジア経済リポート	19

事務局だより

◇2018年5月定例講演会

2018年5月16日(水)

午後1時30分～3時

崎陽軒本店4階「ダイナスティー」

講師は共同通信社元平壌支局

長の磐村和哉さん

演題は「急変する朝鮮半島情勢／南北・米朝首脳会談の評価と展望」

◇2018年6月定例講演会

2018年6月13日(水)

午後1時30分～3時

ホテル横浜キャメロットジャパン

4階「フェアウインドII」

講師は関西学院大学総合政策

学部客員教授、サンデーモーニ

ング・コメンテーターの大崎麻

子さん

演題は「今、なぜ、女性活躍？
国際潮流から考える日本の現状とこれから」

視点



法曹界に新たな人材を

日本には弁護士が足りない。

しかし今、その存在意義に疑問を呈する声が少なくありません。

経営に携わる皆さまはそんな不満を抱いたことがありますか。商取引にも時間がかかり過ぎて外国企団も時間がかかり過ぎて外国籍者も減り、多くの大学が学生募集を停止しました。ピーケ時の横浜国立大学に残されるのみとこうした課題が解消できるのです。こんな声に応えるかたちで2004年、法曹界の人材を育てる法科大学院がスタートしました。

しかし、弁護士が増えれば二度も掘り起こされるというところは外れ、需要はさほど増えなかつたようです。エリートの代表格だった弁護士の受難は衝撃的でした。

では、法科大学院設立は失敗策だったのでしょうか。法科大学院には、幅広い能力を持つ弁護士を輩出するという理想があります。法手続を必要とする仕事には医学や科学などの見識が求められる事案もあり、知識偏重では対応できません。多角的な視野、豊かな人間性を持つ人材を育てようと法科大学院は生まれました。実際に未修者―法学部ではなく文学部や理工学部を卒業した人たち―の多くが法科大学院で学び、弁護士になるケースが少なくありません

した。当初、司法試験合格者は年間3千人を目指しましたが、近年は1500人ほどで推移しています。しかし、弁護士が増えれば二度も掘り起こされるというところは外れ、需要はさほど増えなかつたようです。エリートの代表格だった弁護士の受難は衝撃的でした。

では、法科大学院の仕事が多様化する時代にあって、地域で市民の生活を守ることも大切な業務なのです」と同会は話しています。

年収400万円ほどの時期があつたとしても、あとは能力次第。少子高齢化や情報化社会が急進する時代、変革を迫られる法曹界が新たな人材育成を目指して生まれたのが法科大学院です。うまく着地できるか、しばらく見つめたいと思います。

丸山 孝
(神奈川新聞社編集委員)

ん。法曹界に新たな人材を送り込むという機能は着実に果たしているという声もあるのです。

日本弁護士連合会は「弁護士過疎地」が減少している状況にも注目しています。日本には弁護士が1人もいないという地域があります。こうした過疎地に根を張り活動する弁護士が増えているというのです。

すぐれたアドマン

随筆家・内田百閒は1939

(昭和14)年、日本郵船に嘱託として入社した。翌年、就航した客船・新田丸について、P.R誌『新田丸問答』を書いた。

「新田丸、新田丸つて、どこが違うのだ」「新造船だ」「新造船なら方方にあるではないか」「方方にあるのとは違う」「だからさ、どこが違うのだ」「大きいよ」「日本一か」と、みごとなコピーライターである。広告文を書くだけでなく、こんなイベントを開催した。

文壇から谷崎潤一郎、古屋信子、川端康成、里見弾。久米正雄、横光利一、大仏次郎、正宗白鳥、菊池寛。学界からフランス文学者の辰野隆、東京大学文学部長・今村登志喜。財界から大蔵喜七郎や小林一三。洋画家の梅原龍三郎、筆

林一三。洋画家の梅原龍三郎、筆で建造された。1万

7150トン。3隻のイニシアルを並べるとNYK、日本郵船会社の略字である。

曲の宮城道雄、編集者・佐佐木茂索、朝日新聞副社長・下村海南、侯爵・徳川義親などがそろって船旅した。

だけど誘いあつてフネに乗った

のではない。日本郵船が招待した

のである。フネは1940(昭和15)

年、シアトル航路に就航した

「新田丸」。そのP.Rのためである。

だれを招待するか、人選は内田百

閑。船内で座談会が開かれ、『文芸春秋』に掲載された。

みごとな企画ではないか。百閒のアイデアである。

新田丸は八幡丸と春日丸の3姉妹。

1939(昭和14)年、三菱長崎造船所

答問丸 新田



日本郵



れ、軍艦に改造された。設計当初から、飛行甲板の大きさやエレベーターの位置など、短期間で航空母艦に改造するため、あらかじめ決められていたという。

新田丸は42(昭和17)年11月、吳海軍工廠で航空母艦に改造され

「冲鷹」になった。飛行甲板は長さ172メートル、幅23.7メートル。

乗組員850名、ゼロ戦など26機を搭載。翌年3月、東京湾南東で

アメリカ潜水艦の雷撃で沈没。八幡丸は空母「雲鷹」になり、南支那海でアメリカ潜水艦の雷撃で沈没。春日丸は空母「大鷹」になつたが雷撃をうけ、スクリューや舵

破損。横須賀に曳航されて補修。戦闘機を輸送するため、ルソン島でアメリカ潜水艦の攻撃で沈没。

竣工からほぼ3年、はかない生涯の3姉妹であつた。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)
(国)日本郵船のP.R誌『新田丸問答』。日本郵船歴史資料館蔵